

# 災害から地域を守る消防団



## 消防団とは

消防団は、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を生かした消火・救助活動を行う非常勤特別職の地方公務員です。

その歴史は古く、江戸時代には全身となる火消組織が存在していました。時代とともに、名称などを変えながら、現在へと受け継がれています。

## 活動内容

消防組織の一翼を担う消防団の活動は、災害現場での消火活動をはじめ、避難誘導、各家庭の防火指導、巡回広報など、多岐にわたります。団員がそれぞれの仕事に就きながら、消防団としての活動を行っています。

## 防災対策の「3助」

防災対策には「自助」「共助」「公助」の3つがあります。

自助＝自分で自分を助けること

共助＝家族や企業、地域のコミュニティで共に助け合うこと

公助＝行政による救助・支援  
災害時には、この3つの連携が重要になってきます。

## 地域防災の核「消防団」

自治体による「公助」と、住民の「自助」の間に、地域の「共助」があり、消防団は共助の要として位置づけられ、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い使命感と郷土愛、ボランティア精神で日々の活動に取り組んでいます。



## 飛騨市消防団の組織

飛騨市消防団は古川、河合、宮川、神岡の4方面隊から構成され、その方面隊ごとに分団が組織されています。

分団は、女性のみで構成される女性分団や消防ポンプ自動車を操作する自動車分団など、地域や機能に応じて組織されています。（3頁の図参照）

## 団員数

飛騨市消防団には、消防団員と災害支援団員が所属しています。

災害支援団員は主に、災害出動時に限り活動するもので、一度退職された消防職員や消防団員OBが加入しています。社会情勢の変化に伴い、災害対応力が手薄な平日昼間の消防力を補うために、もつけられています。

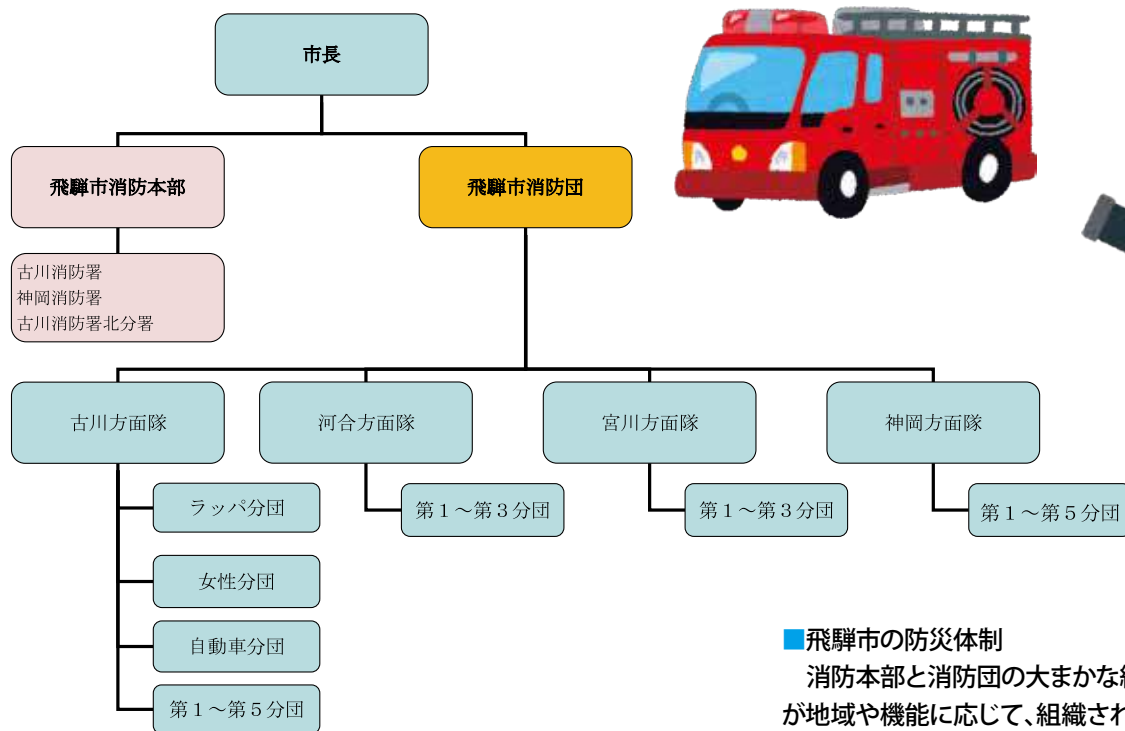
平成28年4月1日現在、飛騨市消防団には847人が所属しています。その内訳は、消防団員が712人、災害支援団員は135人となっています。

## 団員になるには

飛騨市消防団員になるための条件は3つあります。

- ① 市内に居住し、または勤務していること
  - ② 18歳以上であること
  - ③ 心身ともに健康であること
- この3つを満たす方は、男女問わず、どなたでも入団できます。





### 飛騨市の防災体制

消防本部と消防団の大まかな組織図です。それぞれが地域や機能に応じて、組織されています。

### 消防団の現状

飛騨市消防団の定員は930人で、平成28年4月1日の団員数は847人、充足率は90%と不足しています。また、人口減少が著しい地域では、団員数も減り、消防力の低下が懸念されています。

### 今後の方向性に対応策

地域防災の要である消防団を次の世代につなげていくためにも、様々な活動を行っていきます。

### ①啓発活動

広報誌などを通して、消防団活動の重要性を広く市民に啓発し、理解を深めるとともに、新入団員を募集します。また、飛騨市消防団協力事業所表示制度を導入し、事業所等に対しても、理解を深めます。

### ②車両・設備の更新

計画に基づき、消防車両及び小型ポンプの更新を進め、地域防災力の維持・向上を図ります。

### ③組織の統廃合

人口減少等による組織の見直し・統廃合を検討し、消防力の低下を防ぎます。

### 操法大会で腕を磨く

市内の消防団組織では、日頃の訓練の成果を競い合い、消防団活動への意識を高めようと、「飛騨市消防操法大会」が6月12日に、古川小学校グラウンドで開催されました。

大会には4方面隊から30チームが参加。今回は小型ポンプ操法で行われ、団員がホースを延ばし、火に見立てた標的に放水するまでの時間や正確性、規律性などを競い、腕を磨きました。

審査の結果、河合方面隊第3分団が優勝し、8月7日に多治見市で開催される第65回岐阜県消防操法大会に飛騨市消防協会代表として出場しました。その他の結果は次の通りです。

準優勝

古川方面隊第4分団第2部

3位

古川方面隊第1分団第1部

優秀選手賞

指揮者…鈴木宏邦(河合)

1番員…小枝泰浩(古川)

2番員…谷口稔也(宮川)

3番員…水川洋介(河合)

### 優勝 河合方面隊第3分団

指揮者 水川耕介  
1番員 池田健吾  
2番員 長尾隆司  
3番員 水川洋介  
補助員 永田駿員





防災会議を開きましょう

災害は、尊い命や財産を一瞬间にして私たちから奪い取ります。

今年4月には、熊本県熊本地方を中心に最大震度7を記録する大規模な地震が発生し、多くの建物が崩壊するとともに、多くの方が負傷されました。

飛騨市においても、跡津川断層による最大震度7の地震の発生が予想されており、万一の地震の発生に備えて、各家庭や地域で防災会議を開いてみましょう。

●集台場所

避難場所を確認しましょう。また、子どもを迎えに行く役割なども決めましょう。

●避難経路

自宅から避難場所に向かう経路を地図で確認し、休日に実際に歩いてみましょう。

●連絡方法

災害時には電話がつながりにくいので、「災害伝言ダイヤル」など複数の連絡方法を知っておきましょう。

地域で助け合いましょう

災害で大きな被害を受けやすいのは、障がいのある方や高齢の方などの「要配慮者」です。

突然の災害の場合に備えて地域ぐるみで助け合いましょう。

●日々の交流

まずは、あいさつなどから地域の人たちとの交流を深めて、いざというときの意思疎通などがしやすい関係をつくりましょう。

●防災訓練参加

地域の自主防災組織の防災訓練に積極的に参加して、災害時のサポート方法などを一緒に学びましょう。

●避難体制



障がいのある方が、災害時にひとりでは避難するのは危険です。近所です協力して、複数で避難する体制など、地域ぐるみで助け合えるよう決めておきましょう。

飛騨市防災訓練

9月4日(日)  
8時30分

○訓練の想定

震度7の大規模地震が発生、市内各地で家屋の倒壊や火災が発生

○訓練について

各区・自治会(自主防災組織)にて、それぞれ避難訓練や初期消火訓練等が予定されていますので、地域の訓練に是非参加ください。

○主会場 友雪館

メイン会場では応急手当講習、初期消火訓練、煙の中での避難体験のほか、木造応急仮設住宅の展示を行う予定です。メイン会場へも是非ご参加ください。

※当日は、8:35頃にエリアメールの送信訓練も行いますので、携帯電話をお使いの方はあらかじめご了承ください。

【エリアメールとは】自治体が発信する災害・避難情報などを受信することができるサービスで、飛騨市エリア内の携帯電話(ドコモ・KDDI・ソフトバンク)にメールが一斉配信されます。



緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に震源近くで初期微動をキャッチし、強い揺れが到達する直前に知らせる情報です。

最大震度5弱以上が推定される場合に、テレビやラジオ、市内の同報無線などを通じて知らせます。緊急地震速報から揺れが来るまでの時間は、わずか数秒しかありません。身の安全を守ることを最優先に行動しましょう。

地震発生後の行動

●まずは身の安全確保

丈夫な机の下や、「物が落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所で、揺れがおさまるまで様子をみましょう。

地震直後の行動

●火元の確認と初期消火

火を使っているときは、揺れがおさまってから落ち着いて火の始末をしましょう。

●出口の確保

揺れがおさまったことを確認し、ドアや窓を開けて避難できるように出口を確保しましょう。

●落ち着いて行動

建物の中では、倒れた家具や割れたガラスなどの破片に注意しましょう。

●危ない場所へ近寄らない

屋外で大きな揺れを感じたら、倒れる危険性のあるブロック塀、電柱、自動販売機、橋などに近寄らないようにしましょう。

地震後の行動

●状況に応じて避難

家屋の倒壊の恐れや、大きな火災が発生したときは、避難所へ避難しましょう。家族に子ども、高齢者、障がいのある方のいる場合は、早めに避難しましょう。

●正しい情報を集めましょう

ラジオやテレビ、行政、消防、警察など信頼のできるところからの情報を集め、デマなどに惑わされないよう注意しましょう。

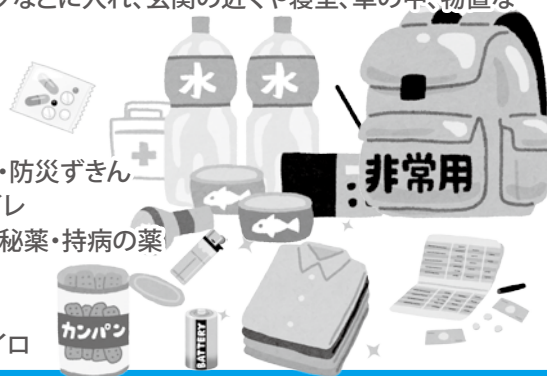
## ー非常時に備えたいアイテムー

避難する時に持ち出す「非常持出品」と、災害直後からの終日の間自足するための「備蓄品」を分けて準備しましょう!!

### 非常持ち出し品

●避難した際に、当面必要となる最小限の品を納めた袋が非常持ち出し袋です。非常持ち出し袋の中身は、それぞれ自分にとって必要な物を考え、準備することが重要です。それらをリュックなどに入れ、玄関の近くや寝室、車の中、物置などに配置しておけば、家が倒壊しても持ち出すことができます。

- |                                   |   |                                       |
|-----------------------------------|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現金       | <input type="checkbox"/> 預金通帳           | <input type="checkbox"/> 印鑑           |
| <input type="checkbox"/> 保険証      | <input type="checkbox"/> 免許証            | <input type="checkbox"/> 懐中電灯         |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ    | <input type="checkbox"/> 予備の乾電池         | <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん  |
| <input type="checkbox"/> ライター・マッチ | <input type="checkbox"/> ナイフ            | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ        |
| <input type="checkbox"/> 救急箱      | <input type="checkbox"/> 処方箋の控え         | <input type="checkbox"/> 胃腸薬・便秘薬・持病の薬 |
| <input type="checkbox"/> 生理用品     | <input type="checkbox"/> 乾パン            | <input type="checkbox"/> 缶詰           |
| <input type="checkbox"/> 栄養補助食品   | <input type="checkbox"/> アメ・チョコレート      | <input type="checkbox"/> 飲料水          |
| <input type="checkbox"/> 下着・靴下    | <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン・防寒着・雨具 | <input type="checkbox"/> 携帯用カイロ       |



### 備蓄品

●大規模な地震が起こると、電気・ガス・水道などのライフラインの被害により物資供給の停滞が想定されます。災害発生も自宅にとどまって当面生活することが想定されるため、日頃から自宅で生活する上で必要な物を備えておくことが重要です。

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> レトルト食品 (ごはん・おかずなど)・アルファ米 | <input type="checkbox"/> 飲料水                 |
| <input type="checkbox"/> インスタントラーメン・カップみそ汁        | <input type="checkbox"/> 給水用ポリタンク            |
| <input type="checkbox"/> カセットコンロ                  | <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー・ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ・割り箸              | <input type="checkbox"/> ラップ                 |
| <input type="checkbox"/> 水のいらないシャンプー              | <input type="checkbox"/> ビニール袋               |
| <input type="checkbox"/> 工具セット                    | <input type="checkbox"/> ランタン                |
|   | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ               |
|   | <input type="checkbox"/> ロープ                 |
|   | <input type="checkbox"/> 長靴                  |

